

登録コード	UAA01500	開講年度	2026			
授業題目	哲学思想論				担当教員	篠原 成彦
					副担当	早坂 俊廣・護山 真也・三谷 尚澄
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・5 時限	
				授業形態	講義	
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学，2 5 UAカリ・総人社・人間文化学					
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。				代表的な哲学の問題を批判的に検討することを通じて、他者の受け売りではない自分独自の思考を練り上げることができるようになる。	
(2)授業の概要	哲学者・思想家たちが取り組んできた問題そのものに取り組むこと、そうした個々の問題を世界諸地域の思想的文脈において理解すること、さらにはそれらを比較思想的な視野において捉え直すことー哲学・思想研究におけるこれら三つの側面における基本的な知識と方法の教授を行います。					
(3)授業計画	第 1 回：哲学・思想研究とは（篠原） 第 2 回：哲学的問題に取り組むことの意義（篠原） 第 3 回：哲学的問題に取り組むための方法（篠原） 第 4 回：哲学的問題と思想史（三谷） 第 5 回：哲学的問題と比較思想（三谷） 第 6 回：思想史研究の意義（早坂） 第 7 回：思想史研究の方法（早坂） 第 8 回：思想史研究における文献探索（早坂） 第 9 回：思想史研究における仮説形成（早坂） 第10回：思想史研究における論証（早坂） 第11回：比較思想研究の意義（護山） 第12回：比較思想研究の方法（護山） 第13回：比較思想研究における文献探索（護山） 第14回：比較思想研究における仮説形成（護山） 第15回：比較思想研究における論証（護山）					
(4)成績評価の方法	報告50%、期末レポート50%で評価します。 得点率による評価基準 90%以上 秀、89 - 80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。					
(5)成績評価の基準	報告および期末レポートの内容が、全般に際立って高度であれば「卓越している」、全般に的確でありかつ深い理解や注目すべき論点を含むものであれば「かなり上にある」、全般に的確であれば「やや上にある」、大きな不備や誤りの無いものであれば「目標の水準にある」と判断します。					
(6)事前事後学習の内容	受講者はテキストをじゅうぶんに読み込んで授業に臨んでください。また、随時報告書等の提出物が求められますので、授業内容をそのつど整理しておく必要があります。					
(7)履修上の注意	やむをえず欠席する場合は、テキストと参考書を用いて、自分で理解を補っておかねばなりません。					
(8)質問,相談への対応	オフィスアワーの利用が可能です。メール連絡先は下記のとおり。 篠原：nshinoi@shinshu-u.ac.jp 早坂：hayask@shinshu-u.ac.jp 護山：smoriyam@shinshu-u.ac.jp 三谷：nmitani@shinshu-u.ac.jp					
【教科書】	内山勝利他（編）『哲学の歴史』全13巻（中央公論新社 2007-08年）					
【参考書】	中村元『比較思想論』（岩波書店、1960年）など。					